

# カブ 適期に間引きを行う



生育適温は15〜20度と冷涼な気候に適し、暑さと乾燥に弱いですが、寒さには強いという特徴があります。春まき(3〜4月)と秋まき(9〜10月)が一般的な栽培期間です。

紅カブでは「飛騨紅かぶ」(トーホク)などの地方品種もお薦めです。

【品種】  
大きさ、形、色(白、赤)がさまざまですが、小から中大カブ取りもできる「スワン」(タキイ種苗)や「耐病ひかり」(タキイ種苗)があります。大カブ品種では聖護院かぶ(トーホク)、

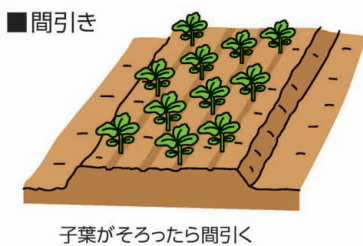
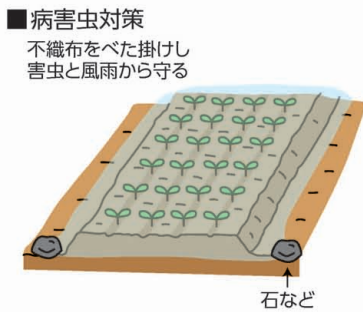
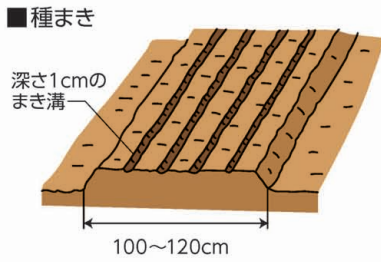
【畑の準備】  
種まき1〜2週間前に1㎡当たり苦土石灰100gをよく混ぜておきます。次に、化成肥料(NPK各成分で10g)150gと堆肥2kgを全面に散布し、よく耕しておきます。

【種まき】  
幅100〜120cmの栽培床を作り、深さ1cm程度のまき溝を20cm間

【追肥・土寄せ】  
間引き後は株元へ土寄せして、株のぐらつきを防ぎます。中大カブでは最後の間引き後に1㎡当たり化成肥料30gを株元に与え、土寄せします。

【病害虫対策】  
不織布をべた掛けし害虫と風雨から守る

【病害虫防除】  
アブラムシには、マラソン乳剤など、アオムシ、コナガにはゼンタリー顆粒(かりゅう)水和剤(BT剤)などで防除します。なお、栽培床に寒冷紗をトンネル状に掛けたり、不織布のべた掛けをすれば、害虫の侵入を防ぎ、風雨から幼苗が守られます。



隔で4条作ります。溝に1〜2cm間隔で種をまき、薄く土を掛けまします。

【間引き】  
発芽し、子葉がそろった時点で、まき過ぎて密になっている部分を間引きます。最終的な株間は子カブで10〜15cm、中大カブで20cm程度にします(図3)。

【追肥・土寄せ】  
間引き後は株元へ土寄せして、株のぐらつきを防ぎます。中大カブでは最後の間引き後に1㎡当たり化成肥料30gを株元に与え、土寄せします。

【病害虫防除】  
アブラムシには、マラソン乳剤など、アオムシ、コナガにはゼンタリー顆粒(かりゅう)水和剤(BT剤)などで防除します。なお、栽培床に寒冷紗をトンネル状に掛けたり、不織布のべた掛けをすれば、害虫の侵入を防ぎ、風雨から幼苗が守られます。

【収穫】  
子カブは直径が5cm程度、中大カブは10〜15cmが敵期で、早く育った株から収穫します。遅くまで置いておくと肥大が進み、す入りや裂根することがあります。

## まだ間に合う!? コンパニオンプランツに挑戦

互いの害虫を寄せ付けない香りを持った野菜としてカブとニンジンを組み合わせて栽培するのがおすすめです。

ニンジンは中間地では8月までが種まきの適期となっていますが、品種や栽培方法によっては9月初めまで種まきできます。または来春の作付けで、興味のある方は挑戦してみてください。

野菜はそれぞれ、虫に対して毒を持つっており、特定の虫は主に香りで虫が食べられる野菜を選んで卵を産み付けます。しかし、解毒能力のない野菜を混植すると、害虫を寄せつけない効果が得られます。

【ニンジンの遅まきのポイント】  
種まきをするときに、ニンジンとカブの列を交互に条まきにします。ニンジンの遅まきのポイントは2つで、初期生育を促進すること、生育後半の防寒対策です。

タネを多めにまき、追肥もやや多めに施します。間引きが大変になりますが、ニンジン同士が競いあって生育促進効果があります。本葉6枚ごろまでに間引きと早めの追肥を施し、11月ごろから不織布で覆いしっかりと太らせます。

